

沖縄地理原稿執筆要領

2007年7月11日(編集委員会にて承認)

1. 原稿の種類

- 1) 原稿の種類は、論説、研究ノート、授業実践報告、資料、書評およびフォーラムとする。
- 2) 論説は、その長短・形式にかかわらず、オリジナルな研究の成果とする。
- 3) 研究ノートは、論説になり得る情報を含む速報や、新しい手法の提案などとする。
- 4) 授業実践報告は、地理教育の発展に寄与する内容を含む授業の実践報告とする。
- 5) 資料は、価値のある調査、記録、統計の紹介と解説とする。
- 6) 書評は、文献の批評・紹介とする。
- 7) フォーラムは、地理学および地理教育の発展・振興などに関する意見・要望とする。

2. 原稿の作成と提出

- 1) 使用言語は、日本語もしくは英語を原則とする。これ以外の言語を用いて作成された原稿を投稿する場合は、事前に編集委員会に問い合わせること。
- 2) 原稿の作成
 - (ア) 原則としてワードプロセッサなどを用いる。
 - (イ) 本文などは、A4 判白紙片面を縦に用いて天地左右の余白（3cm 程度）と行間の余裕を十分にとり、1 ページあたり 1,000 字程度でプリントする。
 - (ウ) 図表などを含めた刷り上がりページ数（1 ページあたりの印刷字数は、最大で 21 字×76 行）は、論説は 20 ページ以内、研究ノート、授業実践報告および資料は 14 ページ以内、書評およびフォーラムは 2 ページ以内とする。
 - (エ) 論説および研究ノートの原稿は、表題、摘要・キーワード、本文、謝辞、注、文献、表、図（写真を含む）の順にまとめ、摘要から文献までは通しページを付ける。
 - (オ) 本文の原稿の右の余白に図表の挿入位置を示す。
- 3) 原稿の提出
 - (ア) 原稿は、ハードコピーのみ 3 部を、送付状を添えて編集委員会に提出する。
 - (イ) 図表のオリジナルおよび原稿入力済みデジタルメディア（フロッピーディスク、CD-ROM など）は、編集委員会から要請があったときに提出する。なお、図表についても、それが記録されたデジタルメディアを併せて提出することが望ましい。提出された原稿のハードコピーおよびデジタルメディアは原則として返却しない。

3. 表題

- 1) 論文の内容を適切に要約したものとする。
- 2) 本文が日本語の場合は英語の表題を併記する。本文が英語の場合は日本語の表題を併記する。

4. 摘要・キーワード

- 1) 摘要は 400 字以内とする。英文の場合は 200 ワード以内とする。図表や特定の文献への直接的な言及は避ける。
- 2) キーワードは 5 個程度とし、摘要の末尾に日本語と英語で付す。論文の内容を的確に示す語を選ぶ。主として文献検索に利用されることを考慮すること。

5. 本文 以下の各項目は、摘要や注などにも適宜準用する。

- 1) 章は I, II, ……，節は 1, 2, ……，項は 1), 2), ……とする。
- 2) 句点は「.」, 読点は「,」を用いる。
- 3) 特殊な字体（イタリック [斜体], ボールド [太字], ギリシャ文字など）は明瞭に区別できるようにする。
- 4) 算用数字や欧字などは、1字のみの場合を除き、半角とする。
- 5) 年次は西暦で表す。ただし、必要に応じて 1972（昭和 47）年のように年号を併記してもよい。
- 6) 外国語文献からの直接引用は、日本語で執筆している場合は日本語訳を原則とする。英語で執筆している場合は、英語訳を原則とする。
- 7) 動植物名の学名や物理量はイタリックで表記する。
- 8) 難読語句・難読地名は、本文の初出の際にルビを付す。摘要や図表ではルビは付さない。

6. 注, 文献の引用, 文献表

1) 注

- ・本文中の当該箇所の右肩に右片括弧付きで^{1), 2)} のように通し番号を付し、本文（謝辞）の後にまとめて、番号を付して注の内容を記す。

2) 文献の引用

- ・次の例に準拠して、著者の姓（紛らわしい場合は名も併記）と発表年を示す。著者が 3 人以上の場合には、筆頭著者の姓に「ほか」または「et al.」を付す。直接引用の場合には、該当するページを明記する。

[例] 阿部（1990）は…，森川（1990a, 1990b）によれば…，Soja（2000:148-155）は…，箸本・荒井（2001）は…，Markusen and Park（1993）は…，漆原ほか（1998）は…，Johnston et al.（1994:136-138）によれば…，シェパードほか（1972）によれば…，これらの研究（渡邊 1987; 太田 1995）では…，…という見方もある（Amin 2002; Dicken et al. 2000）。

3) 文献表の配列

- ・日本語文献，欧語文献の順に並べる。
- ・日本語文献は、著者名の五十音順に並べる。欧語文献は、著者名（姓が先）のアルファベット順に並べる。
- ・同じ著者の文献は発表年の順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合は、引用順に a, b, …を付して並べる。
- ・筆頭著者が同じ者である連名著者の文献の場合には、著者数の少ない順に並べる。著者数が同じ場合には、第 2 著者の順に並べる。著者が 3 人以上でも全著者名を列記する。

4) 文献表の例

阿部 一（1990）：景観・場所・物語－現象学的景観研究に向けての試論。地理学評論，63，453-465。

→(単著論文の場合)

漆原和子・吉野徳康・上原 浩（1998）：福島県あぶくま洞における観光客の入洞数と洞窟の大気環境の変化。地理学評論，71，527-536。→(2名以上の共著論文の場合)

国土地理院（1973）：『沿岸海域基礎調査報告書（豊橋・伊良湖岬地区）』建設省国土地理院。→(報告書の場合)

野澤秀樹（1988）：『ヴィダル＝ド＝ラ＝ブラーシュ研究』地人書房。→(単著単行本の場合)

杉浦章介・松原彰子・武山政直・高木勇夫（2004）：『人文地理学－その主題と課題』慶応大学出版会。

→(複数著者の単行本の場合)

渡辺 光 (1956) : 海岸地形. 富田芳郎編 : 『自然地理 I』朝倉書店, 283-320. →(編著単行本の場合)

Amin, A. (2002) : Regulating economic geography. *Environment and Planning A*, 33, 1237-41.

→(単著論文の場合)

Dicken, P., Kell, P.F., Olds, K. and Yeung, H.W.C. (2001) : Chains and networks, territories and scales. *Global Networks*, 1, 89-112. →(2名以上の共著論文の場合)

Soja, E.W. (2000) : *Postmetropolis: critical studies of cities and regions*. Blackwell, Oxford. →(単著単行本の場合)

Webb, W. L. (1969) : Dynamic climatology of the stratosphere. Rex, D. F. ed. : *Climate of the free atmosphere*. (World survey of climatology, 4), Elsevier, Amsterdam, 281-381. →(編著単行本の場合)

上記のように雑誌では論文の最初と最後のページ数を「-」(半角ハイフン)でつなげて書く。雑誌名を略語表示する場合は、正式な略語表示法にのっとり、過度な略語化はさける。略称が一般化していない場合、他誌と混同しやすい誌名、引用例が少ない誌名などは省略せずに記す。

[訳書の場合]

- ・邦訳書を中心に扱う場合

シェパード R.N., ロムニ A.K., ナーラブ S.B.編, 岡太彬訓・渡辺恵子共訳 (1976) : 『多次元尺度構成法 I : 理論編』共立出版社. Shepard, R. N., Romney, A. K. and Nerlove, S. B. eds. (1972) : *Multidimensional scaling I : theory*. Seminar Press, New York.

- ・原書を中心に扱う場合

Shepard, R. N., Romney, A. K. and Nerlove, S. B. eds. (1972) : *Multidimensional scaling I : theory*. Seminar Press, New York. シェパード R.N., ロムニ A.K., ナーラブ S.B.編, 岡太彬訓・渡辺恵子共訳 (1976) : 『多次元尺度構成法 I : 理論編』共立出版社。

5) 年鑑, 統計書, 新聞記事, 古文書, 地図, 私信などの史資料は, 本文, 注, 図表の脚注のいずれかに
おいて, 編者, 発行年, 発行年次, 発行機関, 所蔵先などの書誌情報のうち, 必要と思われるものを
記す。

6) インターネット上の資料等を利用・引用する場合は, その資料が掲載されているページの URL およ
びその管理者, 閲覧日等を, 本文, 注, 図表の脚注などに記す。

7. 図・表・写真

1) 写真は図として扱う。

2) 図表ごとに, 図 1, 表 1 のようにそれぞれ通し番号を付ける。一つの図表が複数の部分に分かれる場
合には, a, b, …を付し, 本文では図 1 -a のように言及する。

3) 図の作成

(ア) 図の原稿は, そのまま印刷できる版下原稿として作成する。

(イ) 図中の文字などの大きさは, 刷り上がりの原稿の縮尺比率を十分に考慮する。

(ウ) そのままで製版が困難な場合は, 図の書き直しを著者に求めるか編集委員会が業者等に図の作成を
依頼する。後者の場合, 作成に要した費用を著者の負担とする場合がある。

4) 表の作成

(ア) 統計数値は, 精度や単位などを十分に考慮して簡潔に表現する。

(イ) 表の説明等は表の下に記す。表中の罫線は必要最低限にとどめる。